

The 44th Ship for Southeast Asian and Japanese Youth Program



平成 29 年度内閣府青年国際交流事業

第 44 回「東南アジア青年の船」事業報告会

日時：平成 30 年 2 月 25 日 (日) 13:00-16:30

場所：国立オリンピック記念青少年センター
国際交流棟 1 階 国際会議室

主催：内閣府

(一財) 青少年国際交流推進センター
日本青年国際交流機構 (IYEO)



目次

はじめに	1 ... ご挨拶 2 ... 事業概要	訪問国活動	17 ... 表敬訪問、歓迎レセプション 18 ... 課題別視察 19 ... ホームステイ
日本国内活動	4 ... 地方プログラム 5 ... 東京プログラム	参加に当たって	21 ... 応募～乗船～事後活動の流れ 22 ... 日本参加青年の声
船内活動	7 ... 活動日程 8 ... ディスカッション活動 10 ... ソリダリティー・グループ活動 11 ... PY セミナー 12 ... ナショナル・プレゼンテーション 13 ... 自主活動 14 ... 船内での生活	おわりに	24 ... おわりに 25 ... パネルディスカッション 会場フロアマップ

プログラム

13:00-13:15	オープニング	
13:15-13:25	SSEAYP QUIZ	アイスブレイクを目的に、私たちが訪問した国の文化などについてミニクイズを行います。
13:25-13:35	SSEAYPとは	SSEAYPとは何か、この事業の魅力をお伝えします。
13:35-13:45	SSEAYPムービー	52日間の私たちの体験をムービーにて紹介します。
13:45-13:55	平成30年度内閣府青年国際交流事業募集説明	内閣府による説明を行います。
－休憩－		
14:10-14:55	パネルディスカッション	参加青年が本事業に応募した動機、参加して感じたこと、そして未来の参加青年へ向けた一言を紹介し、生の声をお伝えします。
14:55-15:55	相談会	参加青年の#changeや写真の展示を行います。また2つのPYセミナーを開催し、東南アジア及びこの事業についてお伝えします。
15:55-16:15	みんなの#change	私たち参加青年が、本事業を通してどのように変わったのか紹介します。
16:15-16:30	クロージング	

事業報告会のテーマは ... Change

私たち参加青年は、事業参加後に口を揃えて言いました。

「変わった」

日本代表としての経験。ASEAN からの青年との深い友情。

ローカル文化とホスピタリティに触れた6か国でのホームステイ。

一生に一度の密につまった52日間は、船とともに心が揺れて、動いて、ものの見方が「変わる」瞬間の連続でした。

こんな自分でもこれからの世界を変えていけるんだ、

そう思えるかけがえのない仲間との出会いもありました。

今回の事業報告会ではそんな私たちの多岐にわたる

「Change」についてめいっぱいお伝えします。

#Change

参加青年が事業を通して感じた Change(変化) を各ページで紹介します。プログラム中に実際に使用した名刺も併せて掲載しますので、気になる人がいれば連絡を取ってみてください。



事業報告会実行委員長

笹木理沙

ご来場の皆様、本日は第44回「東南アジア青年の船」事業報告会へ足をお運び頂きありがとうございます。本報告会のテーマは「Change」です。昨年秋、国の代表としての誇りとプレッシャーを背負いながら私たちは晴海埠頭を出航しました。時には自分自身を見つめ直して各々の問題に悩み、また、時には立ちふさがるような問題に直面し、たくさんの仲間と一緒に立ち向かった52日間の航海。その色鮮やかな日々は、目も眩むほどの輝きと共に過ぎてゆきました。そして帰国した今、出航したあの日と同じ私たちは、もうどこにもいません。あまりに貴い沢山の経験と想いは参加青年38人の心に焼き付いて、永遠に色褪せないまま私たちを未来へと駆り立てます。この旅を通じてあらゆる意味で「変わった」私たちは、これからの未来を「変えていく」若きリーダーとして歩いていくのです。

この報告会に対し、日本参加青年全員が並々ならぬ想いを抱いております。私たちの想いをお伝えするとともに、この事業を少しでも多くの方々に知って頂き、そして、この事業の意義を日本全国に広めたいという強い使命感を持っているからです。思い出話だけで終わってしまうような報告会にならないように、また、型に捉われずにご来場の皆様に楽しんで頂けるように議論と準備を重ねて参りました。私は実行委員長という役を務めることになり、不安はありましたが、共に旅した仲間に助け、支え、励まされ、本日無事に開催できますことを誠に嬉しく思っております。

「Change」した日本参加青年は今後ともこの事業の発展に力を注ぎ、学んだことを事後活動として社会に還元して参ります。本日の報告会では私たちの「Change」について共有させていただきますので、皆様どうぞお楽しみください。

最後になりましたが、第44回「東南アジア青年の船」事業に携わって下さったすべての方々に心より感謝を申し上げます。



ナショナル・リーダー

所司圭穂理

ご来場いただいた皆様、本日は第44回「東南アジア青年の船 (SSEAYP)」事業報告会にお越しく下さりありがとうございます。44年もの長きに渡り SSEAYP は世界を変えていくエネルギーと可能性のある若者が主役となり ASEAN 各国と日本との友好の象徴として大きな役割を果たしています。

38名の日本参加青年が、本日ここで発表する38通りの「Change・変化」がどのように生まれ、どのような価値ある変化となり、そして、その変化を今後どう活かしていくのか、を知っていただければと思います。多様なドラマが繰りひろげられた ASEAN 各国の代表参加青年275名と過ごした52日間。日常生活を送る上でハードルとなった国・文化・使用言語・タレントの違いを乗り越え、個々を尊重し合えるグローバルリーダーとしての資質を育みました。参加青年はこの事業以上の社会貢献を続けていくこと、そして世界を変えていく一人となっていくことが期待されて人生を豊かにする研さんを積んでいます。貴重な経験を積み重ね、人間性を深くした参加青年は輝き続け、この日を迎えました。どうぞ、創意工夫を凝らした報告会をお楽しみください。

事業概要

経緯・目的

「東南アジア青年の船」事業は、昭和 49 年 ASEAN 加盟国と日本との共同声明に基づいて始められた事業であり、東南アジア各国の積極的な参加と協力の下に、日本国政府（内閣府青年国際交流担当室）が実施している。日本と東南アジア 10 か国の青年が、「東南アジア青年の船」に乗船し生活を共にする中で、各国事情の紹介や討論を行うとともに、船内及び訪問国において各種交流活動を行うことにより、相互の友好と理解を促進し、併せて日本の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力における実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的として実施している。

事業内容

船内活動：ディスカッション活動、各国紹介（ナショナル・プレゼンテーション）、自主活動等
訪問国活動：表敬訪問、ホームステイ、施設見学、訪問国青年との交流等

参加国

ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、ミャンマー連邦共和国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国及び日本

構成

管理官 1 名、副管理官 1 名、管理部員 27 名、ファシリテーター 8 名、
ナショナル・リーダー 11 名、日本参加青年 38 名、海外青年 275 名

航路及び訪問国

事前研修 ※日本参加青年	8月6日 - 8月11日
出港前研修 ※日本参加青年	10月20日 - 10月23日
海外青年来日	10月23日
参集式、歓迎レセプション	10月24日
日本国内活動	10月24日 - 11月1日
出港	11月2日
カンボジア（シアヌークビル、プノンペン）	11月10日 - 11月13日
タイ（バンコク）	11月16日 - 11月20日
ラオス（ビエンチャン）※代表団が航空機で訪問	11月17日 - 11月19日
インドネシア（ジャカルタ）	11月24日 - 11月27日
マレーシア（ポートクラン、クアラルンプール）	11月30日 - 12月3日
帰港	12月12日
海外青年帰国	12月13日
帰国後研修 ※日本参加青年	12月13日 - 12月14日



日本国内活動

参集式で事業の幕が開き、日本・ASEAN 約 320 人の参加青年が初めて顔を合わせる。その後、グループごとに分かれて地方プログラムへ参加し、表敬訪問や各施設等への視察、ホームステイ、ローカルユースとの交流が行われる。



地方プログラム

日本の魅力を海外青年にどんどん発信

約 320 人の全参加青年が、日本と ASEAN10 か国の青年混成のソリダリティー・グループ (SG) に分かれ、国内 11 の府県市を訪れ、表敬訪問や現地の方との交流、施設訪問、及びホームステイを行った。

SGA 宮城県

SGG 三重県

SGB 栃木県

SGH 大阪府

SGC 群馬県

SGI 徳島県

SGD 新潟県

SGJ 長崎県

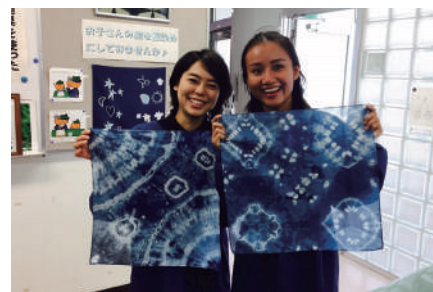
SGE 長野県

SGK 北九州市

SGF 福井県



桐生着物でファッションショー@群馬



染物体験@徳島



歓迎レセプション@北九州



平和祈念像@長崎



各地へは新幹線や飛行機で移動



全参加青年がホームステイ



東尋坊を訪問@福井



伝統の「組ひも」でプレスレット作り@三重



りんご狩り@長野



表敬訪問@大阪

THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Kana Kusuvara

SG-D

DG : Quality Education
City : Nara



#Change

自分とは違う人から、同じ人へ

宗教信仰が身近でない私にとって宗教は未知の世界だったが、彼らも私と同じように環境に影響された結果、宗教を信じるのだとわかった。

< 奈良女子大学・教育学専攻 >

東京プログラム

参加青年が一同に会し、プログラムが始まる

参加青年が初めて顔を合わせる参集式に始まり、課題別視察や表敬訪問、基調講演などが行われ、乗船前に参加青年の意識を高める機会となった。

日程	
10月24日	参集式・歓迎レセプション 内閣総理大臣表敬訪問（代表者）
10月25日 - 29日	地方プログラム
10月30日	課題別視察
10月31日	基調講演 自由時間
11月1日	船へ移動 秋篠宮同妃両殿下御引見（代表者）
11月2日	オープンシップ 出航



ホテルニューオータニでの参集式

課題別視察

8つのディスカッション・グループ（DG）に分かれ、各 DG のテーマに沿った企業、団体、学校を訪問し、日本における社会問題やその現象に対する取り組みを学んだ。

テーマ	視察先
DG1 グローバル化の功罪	国際労働機関駐日事務所、日本貿易振興機構(JETRO)
DG2 情報とメディア	YouTube Space Tokyo、Yahoo! Japan × Youth Create
DG3 国際関係（日-ASEAN協力）	日本アセアンセンター、(特非)開発教育協会(DEAR)
DG4 生活習慣病対策	株式会社タニタ総合研究所
DG5 質の高い教育	一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT) × 東洋大学
DG6 不平等の是正	(特非)豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、(特非)キッズドア
DG7 レジリエントで持続可能な都市づくり	三井不動産株式会社
DG8 青年の起業	株式会社ボーダレス・ジャパン



株式会社タニタ総合研究所を訪問



YouTube Space Tokyo を訪問



Yahoo! について熱心に質問をする青年



#Change

東南アジアと 自国・自分との向き合い方

東南アジアのイメージとリアルギャップが縮まったと同時に、日本人としてどう見られるかという視点が持てたこと、立ち止まって自分の心の声に正直になることを学んだ。

< 人材コンサルタント >

船内活動

プログラムの活動の中心である船内では、約 40 日に渡り 320 人余りの参加青年で共同生活を送る。参加青年の相互理解を目指し、日々様々な活動が行われる。



活動日程

月 日		10:00～11:15	11:30～12:45	14:15 ～15:30	15:45～17:00	19:30～20:45	
11月 1日(水)		乗船 船側オリエンテーション				荷物移動	
2日(木)		避難訓練	出国手続	船内公開	出航式	国別ミーティング COCミーティング 自主活動	
3日(金)		オリエンテーション	GLミーティング／ディスカッション活動運営委員会／船内活動小委員会				自主活動
4日(土)		GLミーティング／ディスカッション 活動運営委員会／船内活動小委員会			写真撮影／船内見学<SG毎>		自主活動
5日(日)		管理官講話	船長講話	ディスカッション活動 (導入プログラム)		カンボジア ナショナル・プレゼンテーション	
6日(月)		フリーデー (半日)			ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションⅠ)		日本 ナショナル・プレゼンテーション
7日(火)		ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションⅡ)			ソリダリティ・グループ活動 (1)		ブルネイ ナショナル・プレゼンテーション
8日(水)		ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションⅢ)			訪問国活動振返り<SG毎> (1)		ミャンマー ナショナル・プレゼンテーション
9日(木)		ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションⅣ)			PYセミナー活動紹介		
10日(金)		カンボジア訪問国活動					
11日(土)							
12日(日)							
13日(月)						国別ミーティング COCミーティング 自主活動	
14日(火)		フリーデー (半日)			ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションⅤ)		タイ ナショナル・プレゼンテーション
15日(水)		ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践への導入)			ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践に向けたワークショップ)		ラオス ナショナル・プレゼンテーション
16日(木)		タイ訪問国活動 代表団によるラオス訪問国活動 (11月17日 (金) ～19日 (日))					
17日(金)							
18日(土)							
19日(日)							
20日(月)							
21日(火)		フリーデー					
22日(水)		ディスカッション活動 (まとめ)			GLミーティング／ディスカッション活動運営委員会／船内 活動小委員会		シンガポール ナショナル・プレゼンテーション
23日(木)		ディスカッション活動 (成果発表会の準備・DG毎のレポート作成)			PYセミナー(1)	PYセミナー(2)	
24日(金)		インドネシア訪問国活動					
25日(土)							
26日(日)							
27日(月)							国別ミーティング COCミーティング 自主活動
28日(火)		ディスカッション活動 (成果発表会)					ベトナム ナショナル・プレゼンテーション
29日(水)		ディスカッション活動 (自己評価)					
30日(木)		マレーシア訪問国活動					
12月 1日(金)							
2日(土)							
3日(日)						国別ミーティング COCミーティング 自主活動	
4日(月)		フリーデー					マレーシア ナショナル・プレゼンテーション
5日(火)		事後活動セッションⅠ (全体会)			PYセミナー(3)	PYセミナー(4)	フィリピン ナショナル・プレゼンテーション
6日(水)		事後活動セッションⅡ (国別・各国の事後活動紹介)			PYセミナー(5)	PYセミナー(6)	インドネシア ナショナル・プレゼンテーション
7日(木)		事後活動セッションⅢ (国別プロジェクト案議論・作成)			ソリダリティ・グループ活動 (2)		自主活動
8日(金)		フリーデー (半日)			PYセミナー(7)	PYセミナー(8)	自主活動
9日(土)		事後活動セッションⅣ (国別プロジェクト案完成・帰国報告会準備)			ソリダリティ・グループ活動 (3)		自主活動
10日(日)		訪問国活動振返り<SG> (2)			フェアウェルフェスティバル準備		フェアウェル フェスティバル
11日(月)		下船手続説明	国別ミーティング	荷物移動			
12日(火)		入国手続・荷物審査			帰国報告会準備	帰国報告会	解散式 解散交歓会
13日(水)		下船					

ディスカッション活動

日本と ASEAN 各国が
直面している課題について学ぶ

ディスカッション活動とは

日本と ASEAN10 か国の参加青年が、共通テーマ「青年の社会活動への参加」のもと、8 つの異なるテーマに分かれ、ファシリテーターの指導により英語でのディスカッションを行う。

目的

各国における様々な分野での課題について理解を深め、参加青年間での意見交換を通じて相互理解も促進する。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、英語での発言力を高め、事業終了後に行う事後活動（事業後の社会活動）にもつなげていく。

ディスカッション活動運営委員会

各国及び各ディスカッション・グループ（DG）から選出された参加青年によって構成される。ディスカッションをリードしてくれるファシリテーターとグループごとの自主活動などを企画運営する。また、船内で行われる国の代表者やテーマの発表会に関する企画運営も行う。



発表に向け打ち合わせ



プレゼンテーションをする機会が多い



日本の事後活動について発表



紙に書いて意見を出し合う



記者会見風の発表会



困った時は仲間が助けてくれる



#Change

日本を、世界を変えられる

ちっぽけな一個人が日本を、世界を変えていくことはできないと思っていたが、人は「無力」ではなく「微力」なので微力が集まり、周囲を巻き込むことで少しずつ環境を変えられると思った。

< 筑波大学・心理学専攻 >

8つのディスカッションテーマ

以下、テーマごとの概要を抜粋。

DG1 - グローバル化の功罪

近年のグローバル化の発展により生じた様々な社会的・経済的な変化を認識し、評価するとともに、将来の望ましい社会像を描き、それに向けて、次代を担う青年としてグローバル化にどう対処すべきかについて議論する。

DG2 - 情報とメディア

現代のメディアと情報の社会的影響力を理解し、人々が情報を発信するためにいかにメディアを主体的かつ効果的に活用すべきか、また、情報の受け手としていかに注意深く情報を取捨選択すべきかについて議論する。

DG3 - 国際関係 (日 - ASEAN 協力)

日本と ASEAN の現在の協力関係を理解し、その上で、日本と ASEAN のこれからの協力関係と連携のために、青年がどのように貢献できるかについて議論する。

DG4 - 生活習慣病対策

日本や ASEAN 各国における生活習慣病の現状と課題について理解し、その上で、すべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進するために、青年がどのように貢献できるかについて議論する。

DG5 - 質の高い教育

日本や ASEAN 各国における教育の現状を理解し、その上で、すべての人々に公平で質の高い教育を提供し、生涯教育の機会を促進することに、青年がどのように貢献できるかについて議論する。

DG6 - 不平等の是正

日本や ASEAN 各国で、国内及び国家間に存在する、収入、性別などの不平等について理解し、その上で、国内及び国家間の不平等を是正することに、青年がどのように貢献できるかについて議論する。

DG7 - レジリエントで持続可能な都市づくり

日本や ASEAN 各国における交通インフラや公共スペース等を含む住環境及び災害の現状と課題について理解した上で、環境に配慮した持続可能かつ強靱な都市づくりのために、青年がどのように貢献できるかについて議論する。

DG8 - 青年の起業

日本や ASEAN 各国における社会と起業（ビジネス）の関係や現状を理解し、その上で、社会及び経済を活性化する点から、社会としてどのような取組が必要か、また、青年自身もどのように取り組むことができるかについて議論する。

事後活動セッション

事後活動 Post Program Activity (PPA) とは、参加青年が事業で得た経験をもとに、事業終了後も継続して行う社会活動のこと。本事業の既参加青年から構成される On Board Ship Conference (OBSC) のメンバーによる助言を受け、DG や参加国ごとに計画・実行する。日本も複数の PPA を企画しており、現在実行に向け動いている。



#Change

私にとっての「青年観」が change!

“まだ”「青年」だから変わりたい、から“もう”「青年」だから変わるんだ、と思えた。違う価値観に触れ、違う自分になってみたいと思えただけでなく、青年の私たちだから世界だって変えられる力があるんだ、と感じた。

< 明治学院大学国際学部国際学科 >

ソリダリティー・グループ活動

仲間との絆を深める

ソリダリティー・グループ活動とは

ソリダリティー・グループ（SG）とは、船内及び訪問国における活動の基本となるグループである。日本とASEAN10か国の参加青年で混成され、各グループ30人前後からなる。今年度はこのSG活動が3度行われ、委員会が考案した宝探しなどのアクティビティが行われた。

目的

3度のSG活動を通して、各SGにおける参加青年の交流を促進し、絆を深める。

SG活動小委員会

各国及び各SGから選出された参加青年によって構成される。SG活動の内容の企画運営を行う。



SGの団結力が試されるゲーム



委員会のメンバーが大活躍



会場はいつも大盛り上がり



参加青年全員集合

THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Masaki Futamata

SG - B

DG : Lifestyle-related Disease
City : Aichi



#Change

友達に対する存在の考え

このプログラムを通して友人とは自分の事を家族と同じくらい見ていてくれて、最も近くで自分を成長させてくれる存在だという考えに change した。

< 信州大学・工学専攻 >

PY セミナー

参加青年の興味・関心ごとの共有と学び

PY セミナーとは

今年度新しくできた活動であり、学びがメインとなっている。Participating Youth (PY) すなわち参加青年が主体となり、自分の興味に沿ったテーマで自由にセミナーを企画運営する。形式もそれぞれ主催する参加青年に任せられ、講義スタイル、ワークショップスタイル、実演実習スタイルなど様々ある。

目的

各国の参加青年が興味を抱いている社会課題や文化等について学び、国際的視野の拡大と意見交換を行う。また、それらの活動を通して他国の社会事情や文化を理解すると共に、参加青年間の交流を促進する。

PY セミナー小委員会

各国及び各 SG から選出された参加青年によって構成される。PY セミナーの開催スケジュール決めから、当日の運営までを行う。



書道では思い思いの字を



日本の武道を紹介



LGBTについて考えるセミナー



伝統料理など、セミナーのテーマは様々

THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Rika Morimoto

SG - F

DG : Lifestyle-related Disease
City : Tokyo



#Change

**臆さず何でも挑戦！
前向きな自分に！**

消極的な性格だったため、事業への参加を機に変わりたいと思っていた。思い切って係やセミナーでリーダーを経験したことで率先して行動できるようになり、自信もついた。

< 東京外国語大学東南アジア課程タイ語学科 >

ナショナル・プレゼンテーション

75 分で伝える自国の魅力

ナショナル・プレゼンテーションとは

音楽、演劇、舞踊などを通して、様々な角度から自国の社会や歴史、文化や青年の実情を紹介する活動である。全 11 か国とも趣向を凝らした演目となっており、船内活動において参加青年が最も注力するプログラムの一つである。他国の社会や文化、歴史を学ぶと共に、自国文化の素晴らしさを再認識することが出来る。

目的

11 の参加国の文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境などを国ごとに紹介し、学びあい、相互理解を深める。



各国趣向を凝らした演出で会場を盛り上げる



日本のアイドル文化も発信



ソーラン節は海外青年に大好評



互いに伝統衣装を貸し借りする青年たち

THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Eizo Yamada

SG-D

DG : Inter. Relations
City : Aichi



#Change

日本的マインドの変化

日本の習慣、慣習、空気感、すべてが他国と違う点で自分のもってる日本らしさに良い意味でも悪い意味でも気づけた。

< 明治大学政治経済学部 >

自主活動

青年各自で企画し体験する活動

自主活動 (Voluntary Activity: VA) とは

参加青年が自由にイベントやセミナーを企画運営し、共通の興味や関心に沿った活動を行う。自国の協賛品を提供する企画やソリダリティー・グループ及び参加青年間の交流を深める企画などがある。

目的

青年自ら企画運営することで、自分で考え、発信する力をつける。



日本の協賛企業にいただいた飲料やお菓子を提供



SG ごとにタレントを競う "SSEAYP'S GOT TALENT"



ラオスの VA "Mr. & Ms. Apone Lao Contest"



カンボジアの VA "Fashion Night"



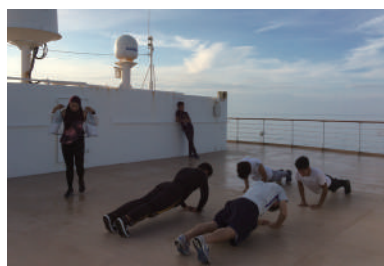
#Change

受け入れる・受け入れられる

同世代の超エリート集団の中で、すさまじい劣等感と無力感に苛まれたが、それでも成し遂げたことを周囲は評価し認めてくれて、非力な自分でもやれることがある、と実感したこと。

< 同志社大学心理学部・生理心理学専攻 >

船内での生活



朝日を浴びながら筋トレ

7:00 起床

各 SG が持ち回りでモーニングコールを行う。



ナショナル・リーダーが司会を務める

8:00 朝食

9:15 モーニングアセンブリー

全参加青年の出欠確認と体温チェック、連絡事項の伝達等が行われる。

10:00 ディスカッション活動

各テーマについてグループワークや発表を行う。



ファシリテーターが議論をリード

1日の流れ（例）

7 8 9 10 11 12 13

モーニングエクササイズ

各 SG が持ち回りで企画を担当。参加は任意。



体を動かして眠気を冷ます

7:30

フラッグホイスティングセレモニー

寄港地に到着する日に執り行われる国旗掲揚式。全員制服を着用して出席。



全 11 か国の国旗が並ぶ

13:00 昼食

食事はビュッフェ形式。毎日新しい友達ができる。



仲間との食事



THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Yuri Ishiguro

SG - I

DG : City Design
City : Tokyo



#Change

何でもまずはやってみよう精神

周りの人がどんなにすごい人でも、恐れずに興味のあることはやってみること、声を出して試みる大切さを知り、まずはやろう!と思うようになった。自分らしく、自分に素直になることが成長への近道だと感じた。

< 昭和女子大学・ビジネス専攻 >

14:15 ソリダリティー・グループ活動

SG 対抗のゲームなどを通して仲間との絆を深められる。



ゲームは毎回白熱する

19:30 ナショナル・プレゼンテーション

75 分間のステージで、各国がその文化や伝統、歴史を伝える。



ステージでは誰もが主役



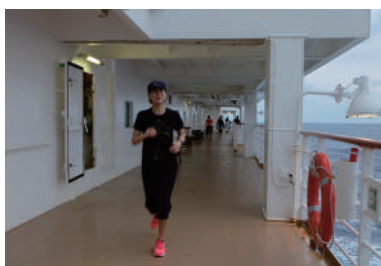
どのステージも圧巻のパフォーマンス

18:00 夕食

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

17:00 フリータイム

各々好きなように時間を使える。発表の練習やミーティングを行うことも多い。



デッキでランニングする人も



国ごとに設けられる伝言板を通して手紙を送り合える

21:00 フリータイム

入浴をしたり、友達と語ったり。船主催の星空鑑賞会が開催される日もある。

23:00 就寝

ナイトコールがかかり、全員キャビンに戻る。



キャビン内の様子



#Change

東南アジアが身近に感じられるようになった

ASEAN 各国の青年と生活を共にし、ホームステイ等の訪問国活動を行うことで、東南アジアについてよりよく知ることができ、身近に感じられるようになった。

< 国家公務員 >

訪問国活動

全参加青年が寄港する4か国と代表団が行く1か国で、表敬訪問や課題別視察が行われ、参加青年一人一人が親善大使としての役割を担っている。現地青年との交流やホームステイを通して、その国の文化や制度への理解を深める。



表敬訪問、歓迎レセプション

訪問国の代表者との対面

各国の代表者に表敬訪問し、直接お話を伺う貴重な機会となっている。代表者には各国の首相や大臣など様々な方がいる。この SSEAYP を通してだからこそお会いできた方が多数おり、事業の規模の大きさ、代表青年としての誇らしさを改めて感じた。



カンボジアのフンセン首相を表敬訪問



ジャカルタにある ASEAN 事務局



歓迎レセプションでおもてなしの料理を味わう



マレーシアでは全員で着物を着用



各国が歓迎レセプションで3分間のパフォーマンスを披露



歓迎レセプションでは記念品の交換が行われる

THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Ayako Hono

SG-J

DG : Aspects of Globalization
City : Ibaraki



#Change

東南アジアへの愛と日本人としての自覚

東南アジアについて、訪問した国もしていない国も、もっと知りたいと思った。一方で、日本の説明をする機会が多くあり、その楽しさと難しさ、自分の無知を感じ、自国の文化についてもっと詳しくなりたいと思った。

< 筑波大学・政治学専攻 >

課題別視察

訪問国における各課題に対する考えや対策を学ぶ

ディスカッション・グループ（DG）またはソリダリティー・グループ（SG）に分かれ、グループごとに施設などを訪問する。政府機関や企業、大学などを訪問することで現地の社会や人々について学びを深めると共に、現地青年との交流等を通して、共通課題の認識と取り組みについて考える。



カンボジアで AIDS について学ぶ



カンボジアの環境省を訪問し都市づくりについて学ぶ



タイの農業博物館で植物の苗を植える



マレーシアの職業訓練校で金型の製造工程について教わる



国連開発計画カンボジア事務所で格差や不平等について学ぶ



カンボジアで盲学校を訪問

THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Mikiko Arai

SG - H

DG : Aspects of Globalization
City : Nagano



#Change

地図の中の ASEAN が立体的になった

授業で得た知識しかなかった ASEAN 各国について、その雰囲気や人々がどんなことを考えているのか、全てが頭の中でまとまり、どんな国なのか自分なりに捉えられるようになった。誰かに説明できるようになった。

< 一橋大学・社会学専攻 >

ホームステイ

現地の人々の生活を直に体験し、訪問国への理解を深める

参加青年は日本を含む全訪問国において、1泊2日～2泊3日のホームステイに参加する。異なる国の参加青年が通常2人1組となって現地の家庭に滞在する。現地の人々の暮らしを直に体験し、ASEAN各国において新しい家族が増える喜びを感じられる。



ホームステイ中は一緒に食卓を囲む@ラオス



トゥクトゥクに乗って街を巡る@カンボジア



ホストファミリーと Batu Cave へ@マレーシア



民族衣装を体験@タイ



ホストファミリーは本当の家族のよう@カンボジア



出港時はテープを投げて別れを告げる@インドネシア

THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Yusuke Kojo

SG-A

DG : Reduced Disparity
City : Yamanashi

#Change

人の輪が広がった！

海外に仲間が出来たこと。仕事や日常の延長では決して出会えなかった次世代のリーダーと知り合いになれたこと。

< 国家公務員 >

事業参加に当たって

「東南アジア青年の船」事業にどのように応募し、乗船に向けどのような準備をするのか、そして事業終了後にはどのような活動を行うのかについて紹介する。



応募～乗船～事後活動の流れ

本事業において、日本参加青年が海外青年とともに活動する本体プログラムは52日間であるが、その前後にも研修や準備期間、事後活動などが行われる。ここでは応募から乗船、事後活動に至るまでの一連の流れを紹介する。

(※平成29年度の場合)

3月上旬 ～下旬	一次選考応募×切	住民票のある都道府県から応募。書類選考と面接試験(一部都道府県のみ)。
5月下旬	二次選考	一次選考通過者は全員都内で受験。一般教養のペーパーテストに加え小論文、日本語・英語面接が課される。
8月上旬	事前研修	日本参加青年候補者が初めて顔を合わせる。6日間の日程で、事業に向けての準備に取り組む。
互いに連絡を取り合いながら、各々ディスカッション活動や ナショナル・プレゼンテーションなどの準備を進める		
10月下旬	出航前研修	4日間の直前準備。
10月下旬 12月中旬	本体プログラム	・日本国内活動 ・船内活動 ・訪問国活動
12月中旬	帰国後研修	事業の振り返りと報告会に向けた準備。
2月下旬	事業報告会	事業の成果を報告する場。

企画した事後活動の実施

<平成29年度の企画例>

- ・参加青年をつなぐプラットフォームの構築
- ・日本各地での報告会
- ・ハラル認証レストランを増やす取り組み



#Change

「世界で戦える」 確かな自信を得た

「共に戦う仲間」をたくさん得て、世界で戦っていけるという確かな自信を得た。この事業で得た仲間・ネットワークを活かして、協働しながらこの世に価値を生み出し続ける覚悟を得たことが私の #change。

<筑波大学・教育学専攻>

日本参加青年の声

日本参加青年は出身地も年齢も専攻も様々。どのような経緯で応募を決意したのか、事業参加に当たり仕事や学業との両立をどのように行ったのか、紹介する。



長田 ゆり

< 慶應義塾大学・ジャーナリズム、
インドネシア語専攻 >

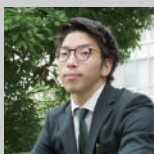
私は「東南アジア青年の船」事業に参加するにあたり、大学3年前期の半期分を休学し参加しました。9月入学だったため、半期の休学でちょうど1年間ずれる事になり、2020年3月に卒業予定となります。大学には休学期間も含めると4年半在籍する事になるため、単位などは余裕を持って取得できます。同年の人と比較すると卒業が1年間遅れる事となりますが、青年の船事業で得られる経験は今後何十年と続いていく自分自身の人生を支える経験となり、人生プランにおいてマイナス要素となるものは何一つないと感じています。



菊池 夏子

< 南山大学外国語学部英米学科 >

大学1年次に本事業を知って以来、在学中に参加したいと考えていました。3年次に一度応募しましたが、残念ながら選考落ち。今回は2度目の挑戦でした。私の他にも再チャレンジで参加青年になった仲間がいます。結果論ではありますが、大学を休学することなく参加できたので、4年次に参加できて幸運でした。単位は計画的に取得していたため、教授と相談してゼミの欠席を埋めあわせる別課題を提出することで参加が認められました。52日間のプログラムではありましたが、大学生活の中で最も濃く、充実した時間となったように思います。



杉浦 真吾

< 東京外国語大学・西洋古典文学、
マレーシア語、国際政治学専攻 >

私がSSEAYPに参加したのは、日本と東南アジアに関する知識や経験を増やし、その上で共に未来を創るスタートとするためです。事業中にビジネスや政治経済の話をしていると、終始彼らの勢いとやる気に圧倒されました。彼らは皆明るい未来を頭の中に描いており、そして何よりも自分がそのプレイヤーになってその未来を実現しようとしていました。今後は彼らと共に、インフラや教育など具体的なサービスを通して東南アジアの人達の生活を後押しし、共に明るい未来を創っていきたく強く思っています。



中里 咲季

< 上智大学総合グローバル学部 >

今回この事業に参加するにあたって大学の単位や必修の科目をどのようにすればいいのかが私にとって、一番の問題でした。「東南アジア青年の船」事業の募集を見て、自分も応募できることを知ったときはまだ1年生であるということもあり、休学をするという大きな決断ができませんでした。そこで私は要項を印刷して学部長に直接相談に行ったところ、来年に必修単位を繰り越すことができ、また、前期に多めに単位を取得することができるなど想像以上に柔軟に大学では単位を取得できることを知りました。自分の興味関心を大切にしながらそれを学問にも生かしていく道を選びました。

THE 44th SSEAYP Contingent of Japan

Tomomi Maeda

SG-A

DG : Quality Education
City : Nagoya

#Change

人生の物差しが変わった！

今まで自分が物事を測る時に使っていた物差しが、いかに視界が狭かったかに気付かされた。色々な種類の「すごい」人達に会い、自分の知っている常識以外の常識に触れて、自分の人生における優先順位が変わった。

< 東京大学教育学部 >

日本参加青年

38人

学生・・・・・・ 25人
 社会人・・・・・・ 12人
 ギャップイヤー・・ 1人



小河宏輝

< 資源開発会社・人材育成担当 >

皆さんこんにちは！現在、資源開発会社（石油、天然ガス、金属など）の人材育成担当をしています。私が SSEAYP に応募した理由は2点ありました。1点目は、日々の仕事に追われ、会社と自宅の往復が続く日が多くなり、もっと多種多様な価値観に触れたいと思ったからです。2点目は、現在の仕事にこの事業を通じて得た人脈や経験を活用したかったからです。今後のプランとしては、現在の仕事である ASEAN の資源開発プロジェクトの推進のみならず、今後考えている個人的事業においても、SSEAYP で得た経験を活用したいと思っています。



山本晃司

< 国家公務員 >

今回、東南アジア青年の船事業には、研修の一環として参加させていただきました。この事業を通じて、東南アジアの参加者たちと寝食を共にし、また、東南アジアの国々でホームステイや施設見学など貴重な経験を得るとともに、文化や習慣にも触れることができました。ここで得たことを将来、関税技術協力という各国における貿易や税関制度の改善などに役に立てて、東南アジアの国々における発展に貢献し、また、日本の発展にも寄与していきたいと思っています。



羽角友樹雄

< コンサルティング会社 >

船事業への参加理由は、東南アジアの青年が今何を思いどう将来を描いているかを肌で感じたかったからです。なぜなら東南アジアは今日本の重要な市場であり、仕事上も不可欠なエリアだからです。その点について会社にも理解して頂き、快く送り出してもらいました。この船では各国の生の情報を掴むことができ、貴重なネットワークが築けました。現在私は日本を代表する企業の組織改革をお手伝いする仕事をしていますが、クライアントも組織のグローバル化を強く望んでいます。そこで、船で得た経験やネットワークを活かし、日本企業の発展に貢献したいと考えています。



益子江里奈

< 転職活動中（前職は化学系専門商社）>

本事業に参加するまでは、化学系の専門商社で営業として働いていましたが、本事業に参加するにあたり退職しました。金銭面で不安がありましたが、具体的には80万円ほどで、参加費、諸経費、事業後の生活費を賄えたので、心配はいりませんでした。本事業を通じて、参加青年や訪問国で様々な刺激を受けることができ、次の仕事で自分のやりたいことが見つかったので、退職してでも参加する価値は大いにあると思いました。また、今、現在転職活動中ですが、この事業の経験が大きなアピールポイントにもなっていますし、実際に企業にも評価されていると実感しています。



#Change

自分の個性を 強みとして感じるようになった

ASEAN10 各国の多種多様な仲間と関わり、自分達の民族と国、双方に誇りを持ちながら個性を伸ばし、互いを尊重しているのを見て、私自身も華人であることに誇りを持ち、一つの強みとして感じられるようになった。

< 青山学院大学国際政治経済学部 >

おわりに

船上で国ごとに集合する際、私たちは「JPY———！」と呼ばれます。Japanese Participating Youth の意味です。左胸につける金色の名札には日本国旗がつき、寄港地に着いた際は日本参加青年全員で日本国旗を持ちパフォーマンスを行いました。

本事業に参加するということは、すなわち日本国を代表し活動することを意味します。一生の中で何度も経験することのない国を代表するという経験は、想像をはるかに超えて、震えるような興奮を私たちの体に残しました。日本政府が国を挙げて取り組む事業だからこそ、他の海外プログラムにはない圧倒的なスケールと大義の中で、各国から時には1000倍の倍率を勝ち抜いた青年たちと1つの船で濃密に学び合います。

今日まで40年以上、この事業の意義を信じ先輩方が繋いでくださったバトンを、次はこれを読んでいるあなたに受け取っていただきたいと心から願います。いつまでも継承すべき事業だと断言できるからです。

参加した人だからこそ共感できる何にも代えがたい出会いと熱狂の記憶を、共に語り合う日を心から楽しみにしています。

パネルディスカッション

参加青年の #change とは何か、志望動機や事業を通しての学びや発見についてお話しします。参加青年の生の声をお伝えすることで、「東南アジア青年の船」事業に対する理解を深め、興味をもってもらえれば幸いです



坂本洋大 <国家公務員>

海外に多くの仲間が来て、自分の新たな一面に気付く経験となります。人生を変えるこの事業に、是非参加してみましょう！



溝井彩夏 <塾講師>

出会うべき時に、出会うべき仲間に出会える船です。「変える」も「変わる」も自分次第。さあ、終わりのない航海へ！



新井美貴子 <一橋大学・社会学専攻>

どんな人でも活躍の場があり、支えてくれる人がいるのが SSEAYP。不安があっても大丈夫です！



河合正太 <関西学院大学・英米文学英語学専修>

私は、今回この事業に参加して本当に多くのことを学ぶことができました。是非皆さんにもこの事業にチャレンジして欲しいです。何もしないことには、何も始まりません。一緒に世界を変えましょう！

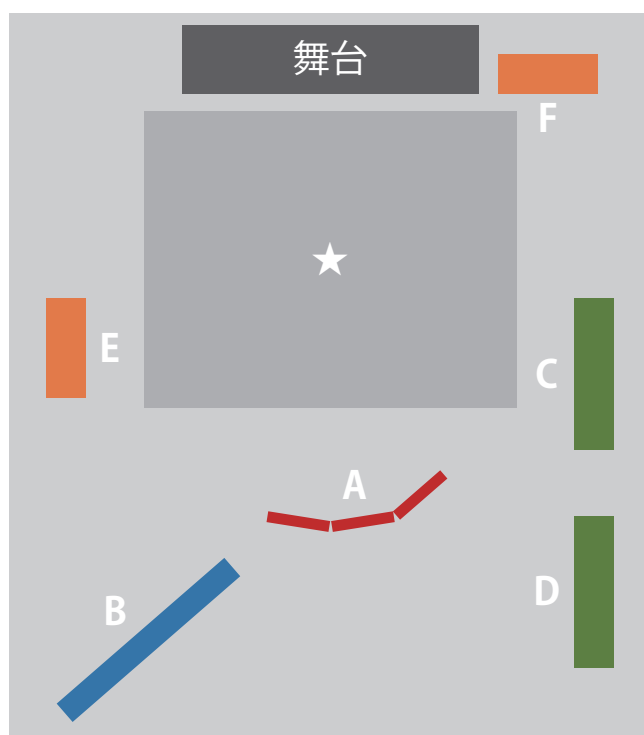


長田ゆり <慶應義塾大学・ジャーナリズム・インドネシア語専攻>

自分がちっぽけに感じる体験は、自分を大きく成長させるエネルギーです。全ての人の無限の未来へ青年の船は航海します。

会場フロアマップ

★	メインエリア	事業説明やパネルディスカッション。
A	展示スペース	<内容> ・日本参加青年の #change ・日本国内活動 ・訪問国活動 ・キャビン紹介 ・事後活動
B	写真展	52日間、写真を撮り続けたプレスチームにより厳選された写真を展示し、私たちが体験したことをお伝えします。
C	PYセミナー① "ASEAN COLLECTION"	ASEAN各国の民族衣装やアイテムをご紹介します。実際に試着して写真も撮れます。
D	PYセミナー② "What is your Change?"	これまでのChange、これからのChangeについて、みなさんと一緒に考えます。
E	相談ブース	本事業に関するご質問やご相談を、日本参加青年がお受けします。
F	内閣府ブース	本事業及び他の青年国際交流事業について、内閣府職員がご説明します。





Change

自分を変えたい。まだ青年だから。

世界を変えたい。もう青年だから。